

週刊すず辰たっ (第330号)平成31.2.18

2/25(月)は臨時休業

今週も、「すず辰(すずたっ)」が厳選しました農家さんの野菜(果物)たちをお買い上げいただきありがとうございます。ぜひおいしいもの好きなお友達・お知り合いにもお声かけください。お客様の輪が八百屋の力になります。

●今週のピックアップ商品○(来週もあります。)土曜営業しています

千葉の柴海農園さんの多品目の面白さ。



柴海農園 SHIBAKAI Nouen

千葉県印西市にある柴海農園。園主の柴海祐也さんとは、東京時代の元同僚。レストランの一店員から始め、最後は店長まで勤め上げ就農。農家である実家から独立し、今では少量多品種の有機農家として、宅配したり、レストランや高級スーパーに卸す新進気鋭の若手農家です。

届く野菜は見た目に楽しく、あまりお目にかからない変わり種野菜多数。その上、おいしいのですから、大したもの。今週どどんと届きます。宝箱の中身を選ぶような楽しさ。新たな野菜との出会いとなりましたらうれしいです。

南アフリカの高級茶葉を使用したルイボスティ。

ノンカフェインでミナラルたっぷりな健康茶。水出しでもお湯出しでもおいしく、40ちよいで第3子を産んだ東京の姉が「おいしい、ノンカフェインは妊婦には助かるからいいよー」、というので置くようになりました。

スーパー等でも見かけますが、店にあるのは一番茶のように、南アフリカ産の、香味の良い若い茶葉使用で味がよいです。



▲すず辰のこぼれ話▽ 次の京とうふは2/19、21、23、26、28です。

くつを並べる息子。

2/13日の夕方、息子らと帰宅。おもむろに玄関の靴を並べ始める長男(8)。元々几帳面な質ですが、何事?!、と思ひ聞いてみると、「誰か来るかもしれないから…」と。えっ、明日家庭訪問とかあったっけ??、と、「先生が来るの?」と聞くと、「そじゃなくて、なんか持ってくるって言われたから…」と息子。

なんか???……………!?

(そこでやっど気づく私(笑)) そいうことかー!!、とうれしくなり、抱き締めると、「来ないかもしれないし…」、とはにかお息子。ニヤニヤが止まらない父なのでした。

◆ちよっとまじめな話:まず要らんものを捨てます!◆

先週末、東京時代の取引先の青果業者の社長さんが無理して店まで来てくれました。(青森で仕事した後、函館まで足を延ばしてくれました!)

そして、がっつり絞られました!(笑)

「あまりに店として整理整頓清掃(3S)ができてない!!」

「集客用の冊子なんて作っている暇あったら、まず3Sからだ!!」、と。

いろんな人から、もうちょっときれいにしたらと言われて6年。八百屋だし、こんなもんでしょ、と思って逃げてきましたが、そこが一番の弱点なのだなとしっかり認識。さらに言われたのが、

「経営も、整理整頓なんだ。商売としてやるべきこととやらないことを分け、整理し、人員を配置し、やるべきことに集中する。それがこんなにもものが散乱していたら、何をやるべきかもわからなくなってしまう。これじゃあ、仕事してないのといっしょだぞ!」、と。

これは結構響きました。お客さんを迎える場になっていない点(そして、雑然として何が売りたいのかわからないとも)、あらゆるものが整理整頓されていない結果、何をどうするのか前向きな事柄が積みあがって行かない。集客のために、すず辰マガジンを作成したり、野菜や店の魅力をお伝えするため、週刊すず辰を作成したりと、特定の努力はするものの。ベースとしての店の環境を整えていないため、整地されてない所で建物を一生懸命建てようとしていたといいますか。一部いい部品はあるものの、連結がうまく働かず速く走れない車といえますか。ホームパーティを開くときは掃除しますもんね(笑)。

「ポロは着てても…」と吹聴してるのも限界なんだと、つくづく認識。

店の魅力を知ってもらう前に、店の雑然とした空気から一見さんで終わってしまった方もいたのだなあ、とつくづく反省。ということで、春へ向けて、日々掃除月間となります。まずはバックルームの要らないものを捨てることから。

「なんか変わったねえ〜!!」と言ってもらえるよう頑張ります!

そして何よりすっきりした空間でお迎えできるように。

(実は粗が気になっていた方〜、ご指摘ありましたらとどしどしお願いします!)

すず辰マガジンがウェブで読めるようになりました↓



《すず辰について》

鈴木辰徳(辰年:42歳。11.8.7歳の3児の父)がH23に開業。「野菜で笑顔を結ぶ」をモットーに、作る人と食べる人の笑顔の架け橋となるべく、素敵な農家さん、野菜果物のおいしさ楽しさをご提案。路面での販売“マルシェすず辰”を経て、H25/3/25念願の店舗オープン! マンガ“八百森のエリー”絶賛応援中!

函館市本通1-24-3(店舗) 店前・店横駐車可。
平日11時半・土曜12時半開店 17時閉店(日祝日休み)
TEL/FAX:0138-76-9865 メール: suzutatsu831@ncv.jp
HP: <http://suzutatsu831.com/>

すず辰の原点というか目標、“八百屋界の旭山動物園”について

◆ちよっとまじめな話：八百屋界の旭山動物園を目指して◆

今では海外からも来園者が来るほど、有名な「旭山動物園」。しかし、その旭山動物園にも、苦難の歴史がありました。

旭山動物園に閉園のうわさが流れたとき、当時の飼育員の人々は不思議でなりません。日々自分たちが魅了されている、こんなにも面白い動物たち。ではなぜ動物園のお客さんが少なくなっているのか？

答えは簡単、飼育員の人たちが感じていた動物の面白さ、すばらしさがお客さんに伝わっていなかったからです。

では、伝えよう、と、飼育員によるワンポイントガイドや、手書きのPOP、親子動物教室などの工夫が生まれ、さらに発展して、理想の動物園を描いた「14枚の夢のスケッチ」へとつながりました。

そして、今その夢のスケッチが1枚ずつ形となり、旭山動物園は日本一有名な、素敵な動物園になっているのです。

八百屋界にもこれが起こせるはずです。

青果業界で仕事をしてきて、早14年。栽培・流通・小売・中食・外食といろんな現場を見てきました。

「野菜はこんなにおもしろい」のに、まだまだお客さんには伝わっていない、そういう悔しい思いを何度もしてきました。

良さが伝わらなければ、安いものの勝ちです。

でも、おいしいものにはわけがあります。

こんな品種だから、こんなところで作っているから、こんな栽培をしているから、こんなに素敵な人々が作っているから、、この時期にこうやって食べれば、絶対びっくりしてもらえる。そんな伝えたいことがたくさん詰まっています。

野菜・果物の魅力を少しでも食べる人に伝え、楽しく、おいしく食べてもらいたい。食べる人の笑顔は作る人の笑顔です。そして評価を受ければうれしく、さらにお金の評価があれば、継続しておいしいものを栽培できます。

日々食べる「野菜・果物」という食品を通して、喜び・元気をお届けできればこんなに幸せな商売はありません。

ならば、物言わぬ野菜・果物の代わりに、ちよいと語るが八百屋の心意気ってものでしょう。

「野菜で笑顔を結ぶ」をモットーに、“すず辰”は、古くて新しい『八百屋』の道を模索してまいります。

ご一緒に野菜の魅力を輝かせていただける方々との出会いを心待ちにしております。

平成23年5月10日

すず辰 代表 鈴木 辰徳



今回改めて思うのは、現状「こんなに野菜は面白いのに、なぜすず辰に来るお客さんはまだまだ少ないのかな？」、って悩んでいる状態ですから、旭山動物園に閉園のうわさが流れた時となんら変わらない、そこから脱し切れていないわけです。「八百屋界の旭山動物園を目指して」と、壮大な目標を公言しつつ、足踏みを繰り返していたというか、「基本のき」がそもそもできていなかったといえますか。

それこそ、東京時代の仕事のスタートはいわゆるコンサルタントなる職業で、人さまの仕事に対し、いっしょに方向性を整理し、役割分担を再確認……と「頭の整理整頓(清掃)」のお手伝いでした。

その後、自社で生産から販売まで手掛けるベンチャー会社で、実際に八百屋を作り、仕入れ先を開拓し、と自ら動く経験をしたものの、つつい、コンサルタントの時のくせが抜けず、現場で動く力が足らず、結果が出ず。

函館に来て、2年半、まずは指示を素直に聞き身体を動かす新人として、現場で生きるサラリーマンをやった末のすず辰創業。

自分で、理想の八百屋を作ってみようと思って来て早8年(店を始めて6年)。まだまだ頭と体のバランスが悪いようです(笑)。

「365日、日々1個ずつ直してみる」とも言っていました。

1日1日、一歩ずつ、文字で伝えるだけでなく、店全体が野菜の魅力を伝える、「みてわかる」舞台となるように。そのための、第一歩、整理整頓清掃！

ほどよい雑然さもいい味、な気も少ししていますが、そこは「計算されつくされた雑然さ」でも言えるものに磨くべく。

新たなスタートです！

